

平成17年度の懇談会活動計画（案）について【資料-2】

1. 旭川流域懇談会活動についてのヒヤリング結果

平成16年度の旭川流域懇談会活動を踏まえ、旭川流域懇談会委員へ今後の旭川流域懇談会活動についてのヒヤリングを行った。主な意見は以下のとおり。

- ・ 「河川整備基本方針」「河川整備計画」のイメージが分かり難いのでサンプルを見せてほしい。
- ・ 旭川と類似した河川、全く異なる河川での流域委員会や懇談会での取り組みの様子を知りたい。
- ・ 旭川の基本方針の進捗状況、策定に当たった課題について、他河川の事例を含めて説明してほしい。
- ・ 流域委員会の運営方法について議論を始めてもよいのでは。
- ・ 旭川の治水事業のこれまでのあらましや変遷について教えてほしい。
- ・ 現在の状況下では、今のような進め方しかないように感じている。現地を見るということは非常に重要であり、旭川に限らず見学できる機会があれば参加したい。
- ・ 旭川危険箇所の公表結果についての反響を教えてほしい。

旭川流域懇談会の目的

旭川流域懇談会は、「旭川流域委員会」設置までの間、旭川に関する諸情報の共有化及び関係住民と河川整備の現状と課題についての認識を深める。

2. 旭川流域懇談会活動の方向性の提案

平成15年、16年度の懇談会活動及び懇談会委員の意見・要望を踏まえ、今後の懇談会活動の方向性を以下のとおり提案する。

旭川流域懇談会の方向性

議論の場の設定

- ・ 住民と進める川づくりの仕組み
- ・ 旭川と岡山地域の歴史・文化との関わり
- ・ 流域委員会の進め方、住民意見の集約方法

現地見学会及び学習会の開催

その他、旭川の新たな情報共有を図る。

(1) 議論の場の設定

テーマ1：流域住民と一緒に進める川づくりとはどんな仕組みか。

テーマ2：旭川と岡山地域の歴史・文化との関わりについて

テーマ3：流域委員会で何を議論したらよいか。流域住民の意見を集約するのにどうすれば良いのか。

テーマ1について

- ・ 河川の維持管理においては市民と行政が協働で進める「アダプト・プログラム」がスタートしている。お互いの役割分担を定め、両者のパートナーシップのもと清掃や美化活動が行われている。
- ・ 河川整備においても流域住民と一緒に進める川づくりにはどのような仕組みがあるのか。

テーマ2について

「旭川と岡山地域の歴史・文化との関わり」について

旭川は、岡山地域の歴史の中で常に重要な役割を果たしてきた。古代から近代まで様々な局面で、社会の構築、文化の創造に関わっている。

いち早く人の住んだ川の流域

岡山県の縄文時代の遺跡は南部では瀬戸内沿岸、中北部では三大河川に沿って分布している。旭川でも川の流れに沿って遺跡が多く、川漁ができ、狩猟・採集にも適した川筋を伝って文化が伝播したことがわかる。

川の幸

魚をとることは、旭川への人の最初の関わり方であった。現在では川漁を生業とする人はほとんどいなくなったが、渓流釣り、旭川の鮎釣りなどレクリエーションとしての数は増え続けている。

生活の場としての旭川

中世には川筋には定期市がたち、旭川の河口にあった鹿田庄には市場が発達し、瀬戸内の海上交通と旭川の河川交通・陸上交通の接点となり、流通の要衝であった。旭川は川の幸を提供し続け、集落を立地させ、都市を発達させてきた。

中国山地の鉄山業

明治の初めまで、砂鉄や木炭の入手しやすい中国山地は鉄山業が盛んで、砂鉄採取（鉄穴流し^{かんなが}）、木炭生産、駄賃稼ぎが農民の暮らしを支えていた。鉄穴流しのため山地が削りとられ、土砂で谷が埋められて水田が開かれていった。一方で、鉄穴流しによって流出する濁水の被害、土砂の堆積による河床の上昇がもたらす被害などで下流農民との間に争いを生じさせ、嘉永年間には岡山藩と勝山藩の対立をひき起こしている。

岡山平野をつくった旭川

旭川の下流域には肥沃な岡山平野が広がる。瀬戸内海には三大河川の沖積作用と近世以降の干拓によって陸化し、岡山平野の形成は驚くほど新しい。鉄穴流しによる砂鉄採取のため大量の土砂が運搬堆積したことも、広い平野が形成される一因となった。

岡山平野には古代の条里地域、中世の荒野を開墾した地域、近世以降の干拓地、第二次大戦後の干拓地と工業用の埋立地が、北から南にモザイク模様を展開している。

米どころ岡山を育んだ旭川

水田址のはっきりしている津島遺跡や百間川河床の遺跡群、雄町遺跡などは弥生時代の遺跡である。かんがい施設である用水路や堰が確認されたものもあり、当時河口付近では、整備された水田経営が営まれていたことがわかっている。

吉備の国

古墳時代になると、米、瀬戸内沿岸の塩、中国山地の鉄を基盤にして吉備氏を中心とする豪族が成長し、大和の豪族に対抗できるだけの政治的、軍事的な力量を備えた独自の吉備文化を築きあげた。古代には水田に条里制がしかれ、遺構が今日まで伝えられている。

流域をうるおしてきた旭川

旭川は流域の水田に灌漑し、住民に飲料水を供給してきた。現在、岡山市を南北に流れ、緑道公園として市民にうるおいを与えている西川の原型は、王朝時代の最大の権力者藤原氏の庄園であった鹿田庄の農業・生活用水を得るためのものであった。後には城下町岡山の防衛のための環濠用水として整備された。祇園用水は旭川左岸一帯の水田を灌漑している。一方、川沿いの地域はしばしば水害に悩まされた。

高瀬舟が行きかった旭川

旭川では、高瀬舟という川舟の往来が古くから発達し、中国山地や吉備高原の人々の生活と瀬戸内海を結びつけていた。高瀬舟は近代になって道路や鉄道交通が発達するまで親しまれ、白帆に風をはらませた舟が川を上り下りする風景がみられた。

高瀬舟は近世の初め頃には、中国山地の山ふところ勝山まで通うようになっており、岡山城下と結ばれていた。勝山は旭川上流域で産出する砂鉄・木材・米などを積みだす河岸（川湊）が発達し、今も当時を偲ぶことができる。久世・落合・福渡・金川などにも河岸が発達し、人の往来、物資の輸送に大きな役割を果たしていた。

旭川の渡し

渡し舟は橋のなかった昔、旭川を横切る交通路の風物詩であった。今日では橋や鉄道が架かれ、自動車や電車がとってかわり、旭川を渡るのも楽になった。

このように旭川と岡山地域の歴史・文化との深い関わりは切り離して考えることができない。これらを調査し、検討を重ね、現地の見学、地域の関係者との意見交換をすることにより、現在及び今後の河川のあり方を考える上での知見を得る基礎資料とする。

今後、河川整備計画策定に向けての地域における意見交換や議論の場においても、地域の生活・文化の基礎となる河川との関わりの歴史を深く把握しておく必要がある。

テーマ3 について

- ・ 他の河川の事例を参考にしながら、何を課題にして、どういう意見が出され、河川整備や維持管理にどのように反映されたかなど、流域委員会の進み方のプロセスについて議論し、旭川において議論する必要事項の整理を行う。

現地見学会企画（案）

テーマ：「旭川と岡山地域の歴史・文化との関わりについて」

主催：旭川流域懇談会

目的：旭川流域懇談会活動の一環として、平成15年に中上流域、平成16年に下流域を「見る」という視点で見学会を行った。視点を「川と人とのふれあい」に移し、旭川流域の人々が流域や河川にどのように関わり地域の歴史や文化を醸成してきたか、地域に根づいて生活や活動されている方とのコミュニケーションを通じて川文化に触れることを目的に実施する。

なお、この成果は別途予定する「旭川流域学習会（歴史・文化）」（仮称）に反映することを考えている。

テーマ：「旭川と岡山地域の歴史・文化との関わりについて」

開催時期：中上流域（5月）、下流域（10月）の2回とする。

プログラム：

（1）旭川中上流域

- ・ 参加者：旭川流域懇談会委員、岡山河川事務所及び一般市民
- ・ 見学場所：事前調査に基づき、歴史的遺構、川文化の名残や現存するものなど選定。
- ・ 懇談会：2時間程度を予定し、地域参加者の方から川との関わりについて話題提供してもらう。
- ・ 2日行程：1日目 10：00 出発～見学（2～3箇所）～懇談会（15～17時）～（宿泊）
2日目 9：00～見学（1～2箇所）～14：00（解散）

（2）旭川下流域

- ・ 参加者：旭川流域懇談会委員、岡山河川事務所及び一般市民
- ・ 見学場所：事前調査に基づき、歴史的遺構、川文化の名残や現存するものなど選定。
- ・ 懇談会：2時間程度を予定し、地域参加者の方から川との関わりについて話題提供してもらう。
- ・ 1日行程：10：00 出発～見学（2～3箇所）～懇談会（15～17時）～懇親会

別表 - 4 (学習会企画)

旭川流域学習会 (仮称) 企画 (案)

テーマ : 「旭川と岡山地域の歴史・文化との関わりについて」

主催 : 旭川流域懇談会

目的 : 旭川流域懇談会活動の一環として、旭川の現状と課題について広く流域住民から意見聴取を行う場として「旭川流域学習会 (歴史・文化)」(仮称) を開催する。

開催時期 : 11 月末 (13 : 00 ~ 16 : 00)

場所 : 岡山市内

対象 : 旭川流域関連地域の方々

プログラム :

旭川流域における河川にまつわる歴史・文化の紹介

基調講演 :

- ・ テーマ : 「旭川と岡山地域の歴史・文化との関わりについて」など
- ・ 講演者 : 旭川の歴史或いは文化研究者、オピニオンリーダー等から適任者を選定。

パネルディスカッション

- ・ パネラー : 基調講演者、郷土史家、地域代表、報道関係者、懇談会委員、河川管理者等から選出。
- ・ コーディネーター : 未定

参加者からの意見聴取

- ・ アンケート形式で行うものとして、旭川にまつわる歴史・文化の認識度やその継承の必要性や方法、川との関わり、河川整備との関係、意見・要望などについて設問を作成する。

とりまとめ

- ・ 結果をとりまとめて岡山河川事務所ホームページに公開する。

2. 平成17年度の旭川流域懇談会活動計画(案)について

平成17年度の旭川流域懇談会の活動を以下のとおり提案する。(別表-5)

議論の場の設定

定例懇談会において、住民と進める川づくりの仕組み、旭川と岡山地域の歴史・文化との関わり、流域委員会の進め方と住民意見の集約方法をテーマに議論し、旭川において議論する必要事項の整理を行う。

(定例懇談会は、6月と2月を予定する)

現地見学会の実施及び「旭川流域学習会(仮称)」の開催

旭川流域を対象に「旭川と岡山地域の歴史・文化との関わりについて」をテーマに現地見学会を実施する。(中上流域5月、下流域10月の2回を予定)また、広く市民からの意見聴取の場として学習会開催を主催する。(11月予定)

旭川の河川整備における現状と課題についての新たな情報の共有

岡山河川事務所が設置している既存の協議会報告については、平成16年度で終了したことから、今後は現在進行中の協議会及び委員会の情報共有を行い、新たな情報共有として維持管理面の情報提供を行う。

また、岡山河川事務所の各種行事の他、旭川流域連絡協議会や旭川流域ネットワークの活動を通じた情報提供を行う。なお、委員の任意参加として各種行事への案内を行う。

別表 - 5 平成 17 年度 旭川流域懇談会の活動計画（案）

年度	月	懇談会他関係組織の主な活動内容				旭川流域懇談会として得られる情報							
		旭川流域懇談会	岡山河川事務所	旭川流域連絡協議会	旭川流域ネットワーク	治水	利水	自然	河川利用	歴史・文化	地域交流	維持・管理	他事例
H17	4		出水前河川点検										
	5	現地見学会 (中上流域)											
	6	第 6 回旭川流域懇談会 (議論の場)		防災シンポジウム	6/5(予定) 旭川一斉水質調査								
	7		水生生物による 水質の簡易調査										
	8												
	9	現地見学会 (下流域)											
	10												
	11	旭川流域学習会		旭川流域交流シンポジウム(源流の碑建立)									
	12												
	1												
2	第 7 回旭川流域懇談会 (議論の場)												
3													
その他			百間川河口水門周辺 有効活用方策検討協 議会										
			百間川分流部周辺有 効活用方策検討協 議会										
			旭川植生管理方針検 討会										

凡例) は懇談会委員が直接得る情報、 は懇談会委員が間接的に得る情報

「旭川流域委員会及び準備会」スケジュール

(H16.11見直し)

